

# 平成13年度事業報告

平成13年9月11日から

平成14年3月31日まで

特定非営利活動法人自然塾丹沢ドン会

## 1 事業の基本

平成13年9月11日、ニューヨークの世界貿易センターが消滅した。同時多発のテロ攻撃によるもので80カ国を超える国々の数千人が犠牲となった。その日から怒りと憎しみによる犯人捜しが始まった。犯人を捜しだし、穴から燻し出して敵を討つとする考えが支持され、たいして時を経ずして復讐の為のアフガン攻撃が始まった。報復にまた報復で答える、悲しいかな人間はいにしえの頃から少しもかわっていない。21世紀の出発の年の出来事である。

奇しくもその日、申請していた特定非営利活動法人の設立が神奈川県によって認証された。NPO法人として自然塾丹沢ドン会の新たなる誕生である。任意団体としてのドン会の歴史は10年の積み重ねがある。それなりに情報を発信しつづけてきた。ブナが枯れ、山の裸地化が進み動物たちの生息地が狭められ、ごく身近な環境の中でも種の幾つかは絶滅の道を辿っている。山麓の里山、里地の変化はさらに大きく、暮らしが変わり、身近な森林や農地が減少し、生活に「うるおい」「安らぎ」を与えてくれていた自然が失われるとともに風土に裏付けられた伝統が消えた。資源や環境を浪費した工業や、経済の発展と生活の豊かさや利便性の向上を第一にしてきた結果がここにある。

丹沢ドン会は慣れ親しんできた生活様式や行動が環境に負担をかけすぎているかをまず見直したいと考えた。循環型社会、生物の多様性の確保、コミュニティの回復など地域でできることから始めたいと調査活動をし、シンポジウムを開催した。気付きや知る事が肝心と捉えたからである。10年を経過してそれが間違っていたとは考えないが、問題はその先にあることに気が付いた。大切な事は、自然観察、リサイクル、ビオトープと言ったテーマや手法でなく、また自然保護を声高に叫ぶ事だけでなく、問題を解決する主体をその地域、現場に育てる事、地域の主体形成にある。そうした力は、実際に自分たちが地域にある課題に積極的に取り組む事によってしか身に付かない。地域はひとつの生態系であるという視点に立ち、丹沢の風となり、山ろくの土となり住民参加の環境まちづくりに参画する。これが法人化へ向けた基本方針であった。法人化

に向け名称も自然塾を加え誰もが参加できるものとした。13年度の主たる事業の概要は次のとおりである。

## 2 庶務事項

法人化にあたり名称、事務所等を次のように定めた。

- (1) 名称 特定非営利活動法人自然塾丹沢ドン会
- (2) 主たる事務所 神奈川県秦野市東田原200番地の49
- (3) 代表者 岡 進

## 3 助成

- (1) 「丹沢心のボランティア・代表田中茂様」  
「丹沢の自然の大切さや保護活動に携わる個人及び団体の活動費の一部にこれを贈り応援する」というもの。田中さんはかつて塔ノ岳の尊仏山荘で小屋番をしながら丹沢の自然を記録する為にカメラを回しておられた方。ありがとうございました。
- (2) 日本財団  
「里山保全にかかる雑木林整備の為にチェーンソー等の整備(始めの一步)」の事業について30万円。14年度事業
- (3) 秦野ジャスコ  
「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」毎月11日に買い物をした黄色いレシートを社会貢献活動をしている登録済みのグループボックスに投函するとその総額の1%が助成されるもの。ドン会ボックスは60万円弱となり6千円相当の鋸と鉋、ロープを購入。

## 4 届け出及び認証

- (1) 法人化申請 平成13年6月12日 神奈川県知事
- (2) 認証 平成13年9月11日 神奈川県知事
- (3) 登記申請 平成13年9月25日 横浜地方法務局長
- (4) 登記完了届け 平成13年10月5日 神奈川県知事

## 5 事業内容

### (1) 里山保全事業

#### ア 方針及び背景

里山の広葉落葉樹は切り株から芽を出し、生まれ変わる「萌芽更新」を繰り返す。山麓に暮らす人たちは、その習性をよく知っていた。木を切って燃料にしたのだが切っても切った脇から芽を出した。天然更新の下手なブナと違って

この雑木といわれる木々は生命力旺盛で簡単に生まれ変わるのである。森林の消滅とともに消えた文明は幾つもある。日本人は賢かった。切ることで里山は萌芽のサイクルを何百回となく繰り返し、里山は守られてきた。

ところが、必需品であった薪や炭がいなくなった。化学肥料の普及で落ち葉による堆肥も不要となった。里山の木は切られず見た目に立派に、太くなるとともに年齢を重ねた。

京都大学生態学研究センターの田端英雄助教授いわく、「日本の里山を救う時間は10年もない」。燃料革命以来すでに40年、当時萌芽更新をしてでてきたヒコバエも、実生で発芽した早苗も伐採が行われていないとすると初老のはず、この木には残念ながらもう萌芽更新の能力はないと。里山も高齢化、少子化が進んだようだ。この状況が続けば日本人の知恵で守られてきた里山はいずれ姿を消すことになる。

平成13年6月の始め、ともに田植えをした東海大学の学生たちの多くは、意味もわからずただ単位取得のために田植えに参加したのかも知れない。教養学部で環境を学ぶ自分たちが何故農業体験なのかと疑問に思った人もいたに違いない。

しかし、講座を組んだ側は、日本の風土の原点とも言える棚田、里山という環境をしっかり見つめている。

「人間の存在そのものが環境破壊なんだ」という人がいる。そうかもしれない。栗の実を拾い、魚を追っていた頃、人間は他の生物と変わる事はなかった。ところが、生物界のサイクルに逆らって人間は増産を始めた。耕作をし、牧畜をすることで他の生物と違った歩みを始め、自然にとって破壊者の道を辿るのである。

丹沢ドン会の名称起因の一つといえる「ドンドンのフンババの大逆襲」はそのあたりを書いている。小麦を手に入れた人間は森林を切り開き、畑地そして都市を作り、山で羊やヤギを飼育した。森林は邪魔者であった。ギルガメシュ叙事詩は森の神フンババと都市の王ギルガメシュの闘いを語り、フンババが敗れ、森が都市に屈する内容となっている。そして、西洋から森林が消えていく。それこそ地球時

間と言えばアツと言う間であった。

東洋とて違いはない。内モンゴルの砂漠地帯がかつてナラ、松の混交林だったことが信じられるだろうか。チベット高原にもトウヒ、モミ、カバノキの大森林があったという。今、中国は砂漠に蝕まれている。

日本の文化は何でもかんでも中国からやって来た。しかし、森林に対する接し方は違う。この辺りがキーワードかもしれない。漢民族には植林の発想はない。稲作は雲南省に始まるとされていたが、今は長江(揚子江)中流域南側であるとされている。

畑作、牧畜民の南下により、稲作をし、長江文明を築いた人たちはその地を離れざるを得なくなる。山岳地帯の雲南省に逃がれた人たちのほか、海に逃れ、日本に流れ着いた人たちがいた。その人たちが弥生文化を築いた。

日本にやって来たこの逃亡者は、水を大切にする民族であった。川から水をひき水田を開発するだけではなく、スポンジのように雨水を染込ませ、山懐でコンコンと清水を湧き出させる里山を大切にした。可能な限り自然のサイクルに従い、生活はのんびり流れた。家畜を持ちこまなかったのもよかった。そして2000年の月日を経た。名古屋の里山にその日本の原風景が残されている。棚田・里山を見つめ学生の学習の場にした側には壮大な文明論があった。人間の存在そのものが環境破壊と言えるかもしれない。その人間の激増により、21世紀しかも前半に人類は混乱の渦に巻き込まれることはほぼ間違いない。それは飢餓か、自然の大災害か。

しかし、自然は強く地球が壊れるわけではない。とすれば人類が大激動を経験した後に希望がある。里山をそして棚田を守って2000年近く美しい社会を築いてきた人たちがいるのだから。

以上を基本的な考え方として、丹沢山麓の伝統的風景の保全を図る為、関心のある希望者を募り、山麓の風土、産業、生産活動、生態系をともに学び、地域の自然・生態系の循環を捉えなおし、生態系に合った山麓の復元を目的にした自然塾を開催した。

**(ア) 自然塾蕎麦作り**

8月 25日 そばの種まき  
11月 3日 そばの刈り取り  
11月 10日 そばの脱穀  
12月 1日 そばうち教室

**(イ) 自然塾麦作り**

6月 16日 前年に植えた麦の刈り取りと脱穀  
6月 23日 麦のふるいと乾燥作業

**(ウ) 自然塾稲作り**

6月 10日(日) 田植え  
秦野市名古木の棚田  
8月 5日(日) 畦草取り  
10月 14日(日) 収穫、刈り取り、乾燥  
11月 23日(日) 東海大学収穫祭

**(エ) 雑木林の手入れ、シイタケのホダ木作り**

第1回 14年1月27日  
第2回 14年2月16日  
第3回 14年3月9日

下草を刈って明るくなった名古木の雑木林に秦野市立東小学校4年生が総合学習で作った巣箱をかけた。当日は長縄今日子さんの巣箱のかけ方や自然の中の生き物たちとの接し方についての話に子供たちは目を輝かせ聞き入っていた。

**(2) 環境学習事業**

自然の摂理、生物の多様性、行動を学び自然に対する関心を高めるために専門家を招いた学習・観察会を実施すると共に環境保全啓発のためのシンポジウムを開催した。

**(ア) 鷹の渡りを観る会**

日時 4月7日  
場所 東京電力秦野変電所下  
参加人員 20人  
日時 10月6日  
場所 東京電力秦野変電所下  
参加人員 20人

### (イ) 蛍観察

日時 7月中旬  
場所 秦野市名古木  
参加人員 20人

### (ウ) 尾瀬・会津駒登山

13年7月14日・15日・16日  
自然保護の草分け武田久吉理学博士の足跡を辿り尾瀬及び会津駒ヶ岳山行を実施した。

### (エ) 環境保全丹沢シンポジウム

日時 11月23日  
場所 秦野市なでしこ会館  
テーマ 「丹沢の先駆者武田久吉博士と丹沢を語る」  
パネリスト 漆原俊氏(秦野山岳会創立メンバー)  
奥野幸道氏(横浜山岳会員)  
司会 岡 進 (自然塾丹沢ドン会)  
従事者 20人

参加 一般公募100人

丹沢資料館建設のため散逸しつつある丹沢の記録、資料、物語をどのように次世代に伝えるかも視野に入れた。

概要(神奈川新聞11月25日記事から)

丹沢の先駆者植物学者武田久吉さんにスポットをあて丹沢の魅力を語り合うシンポジウムがこのほど小田急線秦野駅前のなでしこ会館で開かれた。秦野市民らで作る「自然塾丹沢ドン会」が今秋、NPO法人になったことを記念して主催。武田さんと交流のあった秦野山岳会創立メンバーの漆原俊さん(91)、横浜山岳会会員で神奈川新聞紙上で「丹沢今昔」を執筆中の奥野幸道さんをパネリストに迎え山に寄せる先人たちの思いを語りあった。武田さんは幕末から明治期にかけて活躍した英国の外交官アーネストサトウの二男。植物学者として明治後期から昭和にかけて当時入山者が少なかった丹沢をたびたび訪ね精力的に調査を重ねた。尾瀬沼の開発をストップさせた日本の自然保護活動の草分けでもある。シンポのパネリストを務めた漆原さんは武田さんの調査に同行した経験がある。奥野さんも文通などを通して交流があった。2人は当時の武田さんが愛した丹沢

の姿を机上で再現、会場に集まった約百人が貴重な証言に耳を傾けた。漆原さんによると大正12年の関東大震災まで現在の清川村札掛には盗伐などの見回り札が掛けられた大きなケヤキの大木があり子供が数人は入れるうろがあったという。武田さんは最高峰蛭が岳の名は蛭が多かったと証言していた。東海道線しか開通していなかった明治期には武田さんは山北から夜を徹して西丹沢を巡り表丹沢の塔ノ岳山頂まで上ったなどの逸話も紹介された。今年発足から10年目を迎えたドン会は散逸しつつある丹沢の記録、資料を次世代に伝える「丹沢資料館」の建設を目指しており、シンポでは建設への協力を来場者に呼びかけた。

#### (オ) 収穫祭の開催

平成13年12月1日  
秦野市名古木関野丑松宅  
手打ちそば教室  
地粉によるピザ作りその他  
参加者 40人

#### (3) 丹沢山地保全事業

荒れた山地の補修、維持活動を進め生態系の保全、森林保全に努めた。

##### ア 登山道の補修

日時 12月  
場所 丹沢山地  
従事者 平中義明

登山道が雪解け・霜解けでぬかるむ時期、多くの登山者が歩きやすい部分(草の上など)を歩く春になると道幅が広がっている。ぬかるみにならないと登山者も歩きやすいだろうし、木の吸収性、保水性と透気度を利用して水はけを良くすれば少しでも雨水が地下に浸透する手助けになるという発想でウッドチップを撒く。夏にヒメボタルが光る場所の道幅が広がっていた事に驚きホタル保護の意味もあった(平中)。

##### イ 足柄古道ハイキング

14年3月2日 参加者16人  
春の山菜を愛で、金時の史跡、万葉の古道を辿る。

#### (4) 文化、芸術事業

山麓の風土に生まれ育った文化、芸術等を保全し、また創造性を高めるための文化・芸術作品の公開、発表の機会を設けるとともに市民の文化・芸術活動を支援することを目的とした。

**ア 第1回丹沢山麓展の開催**

日時 平成14年3月29日から31日

場所 秦野市なでしこ会館

従事人員 20人

参加者 一般公募 24人作品40点

**(5) 管理運営**

**ア 広報活動**

本会活動及び本会事業目的達成の為次の広報活動を展開した。

(ア) ホームページを開設した。

(イ) 会報「ドンたん」を発行した。

4月3日(20号) 6月5日(21号) 8月10日(22号)

11月10日(23号) 2月11日(24号) 3月25日(25号)

**イ 慶弔見舞い**

遠藤建三氏(香典)



## 6 2001年度自然塾丹沢ドン会活動経過

2001年

- |       |       |                      |
|-------|-------|----------------------|
| 4     | 3     | 会報「ドンたん」20号発行        |
|       | 7     | タカの渡り観察会 東京電力東田原変電所下 |
|       | 22    | 鍋割山稜雑草の種まき緑化活動・登山道補修 |
| 5     |       |                      |
| 6     | 4     | ドン会打ち合せ(西巻宅)         |
|       | 5     | 会報21号発行              |
|       | 10    | 田植え                  |
|       | 11    | ドン会打ち合せ(西巻宅)         |
|       | 16    | 麦刈り・脱穀               |
|       | 23    | 麦のふるいと乾燥             |
| 7     | 15    | 鍋割山稜登山道補修            |
|       | 14~16 | 会津松枝岐・駒ヶ岳宿泊研修会       |
|       | 19    | ドン会打ち合わせ(リヨン)        |
| 8     | 10    | 会報22号発行              |
|       | 10    | ドン会打ち合わせ(リヨン)        |
|       | 25    | 蕎麦の種まき               |
| 9     | 9     | 蕎麦草取り・土寄せ            |
|       | 13    | ドン会打ち合わせ(リヨン)        |
|       | 14    | ドン会打ち合わせ(リヨン)        |
| 10    | 4     | ドン会打ち合わせ(リヨン)        |
|       | 6     | 鷹の渡り観察会              |
|       | 7     | ドン会打ち合わせ(リヨン)        |
|       | 14    | 稲刈り                  |
| 11    | 1     | 会報23号発行              |
|       | 3     | 蕎麦刈り取り               |
|       | 10    | 蕎麦脱粒・乾燥              |
|       | 17    | 蕎麦のふるい・石拾い           |
|       | 18    | 東海大学室田教室収穫祭          |
|       | 23    | 丹沢シボジウム(なでしこ会館)      |
| 12    | 1     | ドン会収穫感謝祭             |
|       | 8     | 麦の種まき                |
| 2002年 |       |                      |
| 1     | 4     | ドン会打ち合わせ(岡宅)         |

- 2 0 ドン会打ち合わせ(関野宅)
- 2 6 里山ふれあいセンターで雑木林管理研修
- 2 7 雑木林下草刈
- 2 1 1 会報 2 4 号発行
- 1 6 雑木林下草刈
- 2 6 東小 4 年生巣箱かけ
- 3 2 足柄古道ハイキング
- 6 生命の星地球博物館高桑学芸部長と里山里地モニタリング依頼
- 9 ホダ木に椎茸菌の植え込み
- 2 3 会報 2 5 号発行
- 2 6 ドン会打ち合わせ(西巻宅)
- 29 ~ 31 丹沢山麓展(なでしこ会館)

# 財 産 目 録

平成14年3月31日現在

特定非営利活動法人 自然塾丹沢ドン会
--------------------

( 円 )

科 目	金 額		
資産の部			
1 流動資産			
現金			
普通預金			
流動資産合計	303,604		
		303,604	
2 固定資産			
固定資産合計			
資産合計			
負債の部			
1 流動負債合			
計			303,604
2 固定負債合			
計			
負債合計			0
正味財産			303,604

### 13年度特定非営利活動に係る事業会計収支報告

自 平成13年9月11日

至 平成14年3月31日

特定非営利活動法人自然塾丹沢ドン会

(単位 円)

科 目	金 額	備 考
1 収入の部		
(1) 会費収入	200,000	2,000×100人(会員)
	40,000	10,000×4 (賛助会員)
(2) 事業収入		
里山保全事業収入		
参加費	75,000	@500円×50人×3回
環境学習事業収入		
探鳥会参加費	25,000	@500円×50人
蛭観察会参加費	25,000	@500円×50人
山菜観察会参加費	25,000	@500円×50人
環境保全シンポジウム		
参加費	100,000	@500円×200人
文化芸術事業		
山麓展参加費	10,000	@500円×20人
焼き物教室参加費	10,000	@500円×20人
支援事業		
派遣収入	40,000	@2,000円×20人(交通費等実費)
当期収入合計(A)		
設立準備金	550,000	
	303,604	
収入合計(B)	853,604	

# 平成 14 年度事業計画書

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 15 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 自然塾丹沢ドン会

## 1 事業実施の方針

平成 14 年度の事業は、前年度基本方針を踏襲しつつ調査研究、教育活動を中心に実施し、あわせて各専門分野別の各種委員会を設置して、次年度以降の事業の企画検討を行う。

## 2 事業の実施に係る事業

### 1) 特定非営利活動に係る事業

#### 里山保全事業

内容 丹沢山麓の伝統的風景の保全を図るため里山に関心のある希望者を募り、山麓の風土、産業、生産活動、生態系をともに学ぶと共に地域の自然・生態系の循環を捉えなおし、生態系に合った山麓に変えていくための自然塾を開催する。

日時 通年

自然塾雑木林教室 (4~3月)

自然塾蕎麦づくり(8~12月)

自然塾麦作り (12~3月)

自然塾稲作り (5~12月)

場所 丹沢山麓 秦野市名古木

従事人員 それぞれ 20 人

対象者 里山に関心のある者 それぞれ 50 人

支出見込み 451,000 円

#### 環境学習事業

内容 自然の摂理、生物の多様性、行動を学び自然に対する関心を高めるために専門家を招いた学習・観察会を実施すると共に環境保全啓発のためのシンポジウムを開催する。

ア 探鳥会

日時 7月から 10月

場所 丹沢山各地  
従事人員 20人  
対象 自然及び野鳥に関心のある者50人  
支出見込み 1,000円

イ 蛍観察

日時 7月中旬  
場所 秦野市名古木  
従事人員 20人  
対象 里山、棚田、蛍に関心のある者50人  
支出見込み 1,000円

ウ 山菜観察

日時 2月から3月  
場所 秦野市名古木  
従事人員 20人  
対象 自然、山菜、食に関心のある者約50人  
支出見込み 1,000円

エ 環境保全シンポジウム

日時 11月23日  
場所 秦野市内  
従事人員 20人  
対象 市民及び丹沢に関心のある者200人  
支出見込み 40,000円

丹沢山地保全事業

内容 荒れた山地の補修、維持活動を進め生態系の保全、森林保全に努める。

ア 登山道の補修

日時 4月・7月  
場所 丹沢山地  
従事人員 20人  
対象 丹沢に関心のある者 登山に関心のある者  
支出見込み 20,000円

イ 雑草の種まき

日時 4月中旬  
場所 丹沢山各地  
従事人員 20人

対象 丹沢に関心のある者 登山に関心のある者

支出見込み 20,000 円

#### 文化、芸術事業

内容 山麓の風土に生まれ育った文化、芸術等を保全し、また創造性を高めるための文化・芸術作品の公開、発表の機会を設けるとともに市民の文化・芸術活動を支援する。

ア 山麓展の開催 山麓の文化、芸術に関心のある者から絵画、彫刻、写真、工芸作品等を募り展示会を開催する。

日時 15年3月

場所 秦野市内

従事人員 20人

対象 市民 文化、芸術に関心のある者

支出見込み 20,000 円

イ 焼き物教室の開催

日時 通年

場所 秦野市内ほか

従事人員 10人

対象 文化、芸術活動に関心のある者

支出見込み 20,000 円

#### 支援事業

内容 他の団体が開催する環境保全に関する勉強会等の活動に対して、環境保全についての知識や経験を有する者を講師として派遣する。また、環境保全活動を行う団体等に対して当該団体が発行する環境に関する出版物の企画等について相談を行う。

日時 通年

場所 秦野市内ほか

従事人員 延べ20人

対象 環境保全活動を行う団体等

支出見込み 40,000 円

## 平成 14 年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 15 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 自然塾丹沢ドン会

(単位 円)

科 目	金 額	備 考
1 収入の部		
(1) 会費収入	200,000	2,000×100 人(正会員)
	40,000	10,000×4 (賛助会員)
(2) 事業収入		
里山保全事業収入		
参加費	75,000	@500 円×50 人×3 回
環境学習事業収入		
探鳥会参加費	25,000	@500 円×50 人
蛭観察会参加費	25,000	@500 円×50 人
山菜観察会参加費	25,000	@500 円×50 人
環境保全シンポジウム		
参加費	100,000	@500 円×200 人
文化芸術事業		
山麓展参加費	10,000	@500 円×20 人
焼き物教室参加費	10,000	@500 円×20 人
支援事業		
派遣収入	40,000	@2,000 円×20 人(交通費等 実費)
(3) 助成金	300,000	日本財団
当期収入合計(A)	850,000	
前期繰越収支差額	318,484	
収入合計(B)	1,168,484	



2 支出の部		
(1)事業費		
里山保全事業		
自然塾開催	451,000	講師謝金 10,000 × 3 回 旅費交通費 6,000 備品購入 290,000 印刷製本費 125,000
環境学習事業	1,000	講師交通費
探鳥会	1,000	講師交通費
蛭観察	1,000	講師交通費
山菜観察		
環境保全シンポ	20,000	会場借料 20,000
山地保全事業		
登山道の補修	10,000	補修材 10,000
雑草の種まき	10,000	雑草の種代 10,000
文化・芸術活動		
山麓展の開催	30,000	会場借料 30,000 消耗品
焼き物教室	10,000	材料費等 10,000
支援事業	20,000	派遣旅費 2000 × 10 人(交通費)
(2)管理費		
通信費	216,000	会報発送費(12回 × 90円 × 200)
ホームページ維持管理	100,000	維持費 プロバイダー契約 更新料
当期支出合計( C )	875,000	
当期収支差額(A) - ( C )	25,000	
次年度繰越収支差額 ( B ) - ( C )	293,484	